

## 平成27年度審議事項

審議年月日		平成27年6月16日	
申請者		整形外科医師	許斐 恒彦
代表者		整形外科医師	許斐 恒彦
共同担当者		院長	朝妻 孝仁 他3名
15-01	X線透視を用いて行う脊椎手術における、ヘッドマウントモニターの有効性の検証		
研究の概要		内視鏡用のヘッドマウントモニターを術中のX線透視用のモニターとして用いることで、脊椎手術中のX線被爆量の軽減を図ることが出来るかどうか及び有害事象を検証することを目的とする。	
判定	条件付承認		

審議年月日		平成27年6月16日	
申請者		看護部長	渡邊 千香子
代表者		看護部長	渡邊 千香子
共同担当者		首都大学東京	村上 優子
15-02	外傷性脊髄損傷患者の入院中の経験		
研究の概要		患者の経験は、医療者とのかかわりによって形づくられていくと考える。そのため、患者の経験から見える看護のあり様を検討する事で、外傷性脊髄損傷患者への様な看護が可能かということに対する示唆を与えることができると考える。更に読み手である看護師の実践や経験の更新の契機となることが期待される。	
判定	継続審議	平成27年9月14日取り下げ	

審議年月日		平成27年6月16日	
申請者		整形外科医師	八木 満
代表者		整形外科医師	八木 満
共同担当者		ワシントン大学准教授	Michael Kelly 他4名
15-03	成人脊柱変形患者に関する治療コストの国際間比較		
研究の概要		治療を必要とする成人脊柱変形は近年の高齢化とともに増加をしている。一方で適正な治療費を十分把握することは今後の国民皆保険制度を維持するうえで重要であると考えられる。本研究では成人脊柱変形の治療費を国際間で比較することで、より適正な治療費の基準を検討する。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成27年6月24日承認	

審議年月日	平成27年7月21日	
申請者	整形外科医師	八木 満
代表者	整形外科医師	八木 満
共同担当者	臨床研究部長	町田 正文
15-04	成人健常者の脊柱および四肢の立位、歩行における動的評価	
研究の概要	<p>脊椎の変形は耐え難い疼痛と麻痺を生じる深刻な疾患であり、時に手術を要する。一方で固定部位に隣接する脊椎の骨折は20-40%にも上る。本研究では、健常者の立位および歩行を解析し、成人脊柱変形の病態の理解に役立てたい。</p>	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成27年7月28日承認

審議年月日	平成27年8月18日	
申請者	看護師	吉岡 晃
代表者	看護師	吉岡 晃
共同担当者	看護師	西島 智美 他3名
15-05	腰椎の手術を受けた患者のベッド上安静時のニーズに関する調査	
研究の概要	<p>先行文献では腰椎疾患の手術を受けた患者の術後のニーズについての記載がない。看護師が必要と考えるケア以外にも術後ベッド上での安静を強いられた腰椎の手術を受けた患者に特有と考えられるニーズを明確にし、日々の病棟の業務に反映させる。</p>	
判定	継続審議	指摘事項を修正のうえ、平成27年10月20日承認

審議年月日	平成27年8月18日	
申請者	看護師	芳賀 あずさ
代表者	看護師	芳賀 あずさ
共同担当者	看護師	伊藤幸枝 他2名
15-06	脊椎疾患・下肢関節疾患患者が手術決定直後に抱える不安の実態調査	
研究の概要	<p>当院では主治医が外来診療内で手術を決定した後に外来看護師が術前オリエンテーションを実施しているが、患者から手術前後について問われる事も少なくないが、看護師の経験により患者に対し積極的に周術期の情報提供に差が生じている可能性がある。そのため、手術決定直後に抱える不安と程度を明らかにすることで、統一された効果的な術前オリエンテーションが行えると考えた。</p>	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成27年9月3日承認

審議年月日	平成27年10月20日	
申請者	リハビリテーション科医長	植村 修
代表者	リハビリテーション科医長	植村 修
共同担当者	リハビリテーション科医師	宇内 景 他6名
15-07	頸髄損傷患者における徒手の咳嗽訓練の効果	
研究の概要	<p>先行研究において、1日10回2週間の深呼吸療法を行っていたが、呼吸訓練を毎日施行することは、在宅療養患者の介護者にとって簡単ではなく、病院においてもマンパワーの問題もあり困難である。そのため、介入の頻度は減らして、長期間介入することでの呼吸リハビリの効果判定し、在宅での家族による介入の可能性及び病棟でのカフマシンを用いた呼吸リハビリの可能性を検討する。</p>	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年4月1日承認

審議年月日	平成27年11月17日	
申請者	リハビリテーション科医長	植村 修
代表者	リハビリテーション科医長	植村 修
共同担当者	リハビリテーション科医師	宇内 景 他2名
15-08	脊髄損傷患者の起立性低血圧に対する機能的電気刺激の効果	
研究の概要	<p>本研究は、起立性低血圧のある脊髄損傷患者の下肢筋にFES (Functional electrical stimulation) を短期間(2週間)行いFESの意義を検討する。</p>	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年1月15日承認

審議年月日	平成27年11月17日	
申請者	リハビリテーション科医長	植村 修
代表者	リハビリテーション科医長	植村 修
共同担当者	リハビリテーション科医師	宇内 景
15-09	過活動膀胱を呈する脊髄損傷患者に対するイミダフェナシンの効果	
研究の概要	<p>本研究は、膀胱選択性の高い抗コリン薬であるイミダフェナシンの脊髄損傷による過活動膀胱に対する効果を検証し、脊髄損傷による過活動膀胱治療に新たな選択肢を加えることができると考えている。データは平成23年1月1日から平成25年12月31日まで入院していた患者で、ウロダイナミクスを行った後にイミダフェナシンを投与された患者の診療録からデータを確認する。</p>	
判定	承認	

審議年月日	平成28年1月19日	
申請者	整形外科医師	大柁 英昭
代表者	整形外科医師	大柁 英昭
共同担当者	整形外科医師	大柁 英昭
15-10	骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定	
研究の概要	全国12大学の分担研究者と共同で、それぞれの関連施設も含めた多施設共同の大規模介入試験を行い、保存的初期治療法の指針を策定することを目的とする。	
判定	継続審議	平成28年3月30日取り下げ

審議年月日	平成28年2月16日	
申請者	病理生化学研究室長	笹崎 義弘
代表者	病理生化学研究室長	笹崎 義弘
共同担当者		
15-11	大型歩行解析装置を用いた人工膝関節置換術前・術後の運動機能評価	
研究の概要	本研究の目的は、3次元動作解析装置と大型床反力計を用いて、患者の術前・術後における膝関節の運動とモーメントを比較することにより膝関節動揺性の変化を3次元的・定量的・経時的を解明することである。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年3月23日承認